



「福音を福音として」

中津川伝道所会員

後藤公子（元インドネシア宣教師）

今年の3月をもって神戸改革派神学校の非常勤講師としての働きを辞しました。海外での働きを含めて伝道者教育に携わった期間は27年に及びました。最初はインドネシアの西カリマンタンにおける7年間の伝道者教育、続いてインドネシアの東ジャワにあるアレセア神学校での10年間の伝道者教育、そして最後が神戸改革派神学校での10年間の奉仕でした。

海外へ出た当初は御言葉を宣べ伝える働きに召されているという確信がありましたが、それは漠然としたものでした。最初に導かれたのはシンガポールの日本語集会で、7年間、主に日本人への伝道奉仕をしました。その間に異文化伝道のヴィジョンと召しが明確に与えられ、日本語集会での奉仕のあと西カリマンタンへ導かれました。

現在に至るまでの奉仕の原点になったことのひとつが、まだ日本にいたころ読んだニューギニアでの宣教記録「人食いの谷」に掲載されていた一枚の写真です。宣教師のバイブルクラスに参加している一現地人の喜びに輝いている表情に魅せられ、私も御言葉を教える働きがしたい、と思いました。その写真に深く感銘したのは、その喜び輝いている表情から明らかに見て取れる御言葉のもつ偉大な力です。人を救い、霊的な飢え渴きを満たし、人生の目的を明確に示し、自分のために生きるのではなく、キリストのため、また他者のために自分自身を献げたい、と願わせる不思議な御言葉の力を私自身信仰者として歩むなかで体験してきました。そして御言葉をより深く理解し、より

明確に、より説得力をもって人々に伝えることができるようになりたいと心から願いました。御言葉のもつ無限の力に触れたからです。それが伝道者教育における私の最大の目標でした。そのようななかで御言葉を正しく明確に理解することの大切さを覚えると同時に、私自身が御言葉を聴くことによって霊的な命を新しくされ、主キリストとの交わりに導かれ、信仰が深められ、新しい歩みに向かう力を与えられてきました。それは何にも勝る、また他の何をもっても代えることのできない特別な恵みでした。

御言葉は無限の大きさ、広さ、深さをもっていますので、実際には、ほんの入り口のところで葛藤し、自分自身の無力さを実感しているというのが正直な気持ちです。たとえそうであっても、私自身の信仰生活における最大の恵みは、そのような体験を通して与えられたものであることにかわりはありません。

御言葉は私だけでなく、だれにとっても人生の根本的な問いに明確な答えを与え、そのように生きるための霊的な力を与えることのできる、まさに福音、良い知らせです。福音を福音として宣べ伝えることの大切さを考えさせられています。そのためには御言葉を宣べ伝える伝道者自身が御言葉の福音によって真に生かされ日々恵みを受けていることが何よりも大切だと思います。それが福音を福音として語ることのできる唯一のカギである、と考えるからです。

卒業生挨拶



特別研究生

千 禎鎬

(チョン ジョンホ)

四国中会 普通寺教会に赴任



主の御名を心より賛美致します。第67回（2019年6月25日）卒業生の千 禎鎬（チョン ジョンホ）と申します。第67回の卒業式は私一人なので、少し寂しかったですが、多くの方々に関心を持っていただき、お祝いしてくださり恵み溢れる卒業式となりました。心から感謝申し上げます。

助け合い、愛が溢れる仲間も与えられて本当に嬉しく楽しい神学校での生活でした。特に、学びと訓練の中、派遣教会と夏期伝道の教会、卒業説教として招いて下さった多くの改革派教会と兄弟姉妹に出会えたことが本当に良かったと思います。すべてが神様の恵みです。

私は約6年前に大阪のある教会で副牧師として協力しながら宣教活動を始めました。4年ほど働き、日本宣教をするなら、日本の教会と共に宣教をしようという強い思いが与えられ、祈りながら準備しました。日本の教会で日本の方と共に福音と神様の愛を伝えようと決心した時、神様は神戸改革派神学校に導いて下さり、この神学校で学び、訓練するように道を開いてくださいました。私は韓国の総神学大学院を卒業して牧師按手を受けていたので本科生ではなく、特別研究生として学ぶことになりました。足りないものですが、私をこの神学校に受け入れてくださり、卒業まで忍耐を持って暖かく教え、指導して下さった先生方と教職員の方々に感謝致します。そして、全国の諸教会・伝道所の皆様のお支えとお祈りによって2年3ヶ月の学びと訓練を終え、卒業することができました。心より感謝をささげます。私にとっては、とても有益な時間であり、良き学びと訓練の時間でした。さらにそれぞれの悩みを分かち合い、共に祈り、

卒業後、日本キリスト教改革派教会で働くことになりました。まだ未熟なものであり、足りないものですが謙遜な心を持ち、深く学びながら神様の御心に適うものとして働こうと思っています。私は、これからの働きの上に神様が共にいてくださり導いてくださると信じています。主の憐れみと導きがあるように、また聖霊に満たされ働く事ができますようにお祈りをお願い致します。これからもどうぞよろしくお願い致します。



入学生挨拶



本科課程

川端 達哉

(かわばた たつや)

日本同盟基督教団
松原聖書教会

主の御名を賛美致します。日本同盟基督教団の松原聖書教会から参りました、川端達哉と申します。幼いころから教会の交わりの中で育てられ、小学4年生で洗礼の恵みに預かりました。その後も主の御手によって支えられ、また多くの方々の祈りと忍耐によって生まれ、今日まで信仰の歩みが守られてきましたことを覚え、心から感謝致します。

私が神様からの召命を受けたのは、今から2年前のことでした。「自分が牧師になる」なんて、それまで考えたこともありませんでした。自分が牧会者として相応しいなんて、一度も思ったことがありません。しかし、神様は御言葉によって、あえてこの私を召し出されたということを、はっきりと

示して下さいました。神様からの「GOサイン」に「NO」は言わない。その思いだけで、献身を決意しました。自信を無くして落ち込んだり、迷ったりしてしまう弱い者ですが、自分の足元ではなく、私を引き上げて下さる主を見上げて、歩み続けたいと思います。

改革派神学校に入学することを決めたのは、この学校の卒業生である偉大な先生に勧められたことがきっかけです。私がこの神学校に入学できたことは、まさに主の導きでした。母教会から離れたことがなかった私にとって、改革派神学校で学ぶ日々は、本当に刺激的なものでした。入学と同時に、神学生や教授の皆様は、教派の違う私を温かく迎えて下さり、主にある豊かな交わりに加えて下さいました。また改革派神学の体系化された学びは、新しい発見と同時に、自らの信仰を見つめ直す機会にもなっており、毎日がとても充実しています。これからの4年間の学びによって、知的な学びだけではなく、共同生活や、交わり、奉仕など様々な機会を通じて、献身のための備えを忠実に為していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



本科課程

蔣 淳吉

(ジャン スンギル)

西部中会 広島教会

主の御名を賛美いたします。第70回入学生の蔣淳吉（ジャンスンギル）と申します。私は、2015年から今年の3月まで4年間、改革派広島教会の協力伝道者として働きました。以前、住んでいた東京での生活とは全く違う、広島市内からは少し離れ、また、野球のシーズンになるとカーブを応援する声が響く、そのような町での生活、また広島教会で送った4年間の信仰生活は、私の人

生の大きなターニングポイントとなりました。実は、2011年に起きた東日本大震災をきっかけに日本宣教への献身に導かれた私に、「日本ででの留学経験もあるから、協力伝道者などしないで真っ直ぐ神戸改革派神学校に入学すれば？」との周りからの意見もありましたが、当時、日本の教会についてもっと知り、もっと体験したかった私は、祈りの中で「日本宣教」の第一歩を協力伝道者として踏み出しました。改革派教会で4年間学んだことや経験したさまざまなことを考えると、その選択は本当に神様の導きによる、後悔のない正しい選択だったと思います。

私は韓国の宣教団体から派遣された外国人宣教

師という、いわゆる外から来た人、外側の人間という立場になりますので、本来ならば、日本国内に私の母教会というところは存在しないということになりますが、そんな私にも「広島教会」という立派な母教会ができ、また、韓国だけでなく、日本のどこかにも、私たち家族のために祈ってくださり、応援して下さる方々がいらっしゃるということは本当に何よりの力と励ましになります。

これからの4年間、私自身、国籍では「外側の人間」かもしれませんが、同時に、日本キリスト改革派教会という素晴らしい共同体の一員である「内側の人間」として学びと訓練を進めていきたいと思っています。よろしく願いいたします。



本科課程

曹在佑

(ジョ ジェウ)

大韓イエス教長老会合同派
スヨン口教会

主の御名を賛美いたします。今から15年前の2004年、留学生として日本に来た私は、先輩の伝道によって教会に導かれました。教会での学び、特に、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深いものなのです。」という御言葉を通して、自分がいかに罪人であるかを知り、イエス様を唯一の救い主として受け入れることを決心し、洗礼を受けました。洗礼を受けた後は、なぜ日本で信仰が与えられたのか、その理由を考えるようになり、日本への留学やイエス様との出会いなど、そのすべてが神様の計画であることを悟るとともに、日本宣教へのビジョンを持つようになりました。

しかし、日本宣教のビジョンは与えられたものの、安定した生活も求めていた私は、なかなか行

動を起こすことができませんでした。そんな中、「水の上を歩くペトロ」に関する説教を通し、イエス様だけに頼ることができなかったことを悔い改め、仕事を辞め、韓国で宣教訓練を受ける決心をしました。韓国では、宣教訓練を受けながら、釜山にあるスヨン口教会の日本語礼拝部で礼拝を捧げるようになり、そこで初めて改革派信仰に出会いました。日本語礼拝部を通して、改革派信仰は、「神の言葉によって絶えず改革され続ける事」を、教会だけではなく、信条や個人の信仰生活までも含めて行われていることを知り、教会の分裂を経験した私にとっては、改革派信仰に基づく教会こそ本当のキリストの教会であると考えようになりました。そして、そのような改革派信仰についてより深く学びたいと思うようになりました。さらに、その後、「あなたがたにゆだねられている、神の羊の群れを牧しなさい」という御言葉により、牧師への召命が与えられました。

これからの4年間は、その召命を、より確固たるものにする期間だと思っています。神様の導きと与えられた訓練に感謝しながら、自分の土台をしっかりと固めていきたいと思っています。

特別公開講演会

「天皇の代替わり儀式に抗議する」



4月30日（火）、神戸改革派神学校を会場にして「天皇の代替わり儀式に抗議する特別公開講演会」が開催されました。「キリスト者は天皇制をどうとらえるべきか」という主題のもと、本校教授の袴田康裕先生に講演をしていただきました。天皇の退位と即位に関わる儀式が「国事行為として」行われたことに対する問題点を明確に指摘した上で、キリスト者として天皇制を捉える視点として以下の4点が示されました。

①「聖書から見れば、天皇の本質は異教の大祭司である。決して、ウェストミンスター信仰告白第23章が言う「国家的為政者」ではない。キリスト者が天皇制を擁護する根拠を、聖書に見出すことはできない。」

②「現在の日本の為政者は、天皇の權威の強化を目指している。これは事実上、国家主義の強化であり、間違いなく少数者の基本的人権の侵害に結びつくものである。」

③「キリスト者は『天皇を戴く日本』の国民である以上に、天に市民権を持つ者である。聖書は国家的ナショナリズムを是認しない。」

④「日本の教会は、かつて大きな過ちを犯した。その過去を教訓として、教会は『靈的自律、信仰

上の独立、スピリチュアル・インデペンデンス』の意識を明確に持たなければならない。」

戦前、日本の教会は天皇制に与し、「キリストを頭とした」教会を守れなかった歴史があります。これを袴田教授は天皇制に対する「第一の敗北」と述べています。さらに、現代は日本の教会の、天皇制に対する「第二の敗北」なのではないかと述べています。それは、明仁天皇が「象徴」としての在り方について持っている姿勢に、多くの日本人が慰めを感じ、彼に倫理的權威と、靈的權威を認めている事実に対して、これは本来、キリスト教会が果たすべき役割ではなかったのか？ということです。「王座も主権も、支配も權威も、万物は御子によって、御子のために造られました。」（コロサイ 1:16-17）この聖書の教えに、私たちが本気で立つかどうかが問われていると言えます。私たちはどんな時代にあっても神の言葉に立つ、という決意を新たにしたいと願います。

3年生 金原堅二



信徒神学講座

「スコットランド教会史」



5月11日・18日の2日にわたり、園田教会にて春の信徒神学講座が行われました。1日目36名、2日目34名の皆さまとともにスコットランド教会における近現代史を袴田康裕先生から学びました。ご用意下さった資料の中には1638年に結ばれた国民契約の原寸大の写しもあり、現地スコットランドで学ばれた多くの事柄を当時の様子が描かれた絵や年表、地図などを交えながら、わかりやすかつなごやかに教えていただきました。

24歳の若さでセント・アンドルースにて焚刑に処されたパトリック・ハミルトンの殉教から始まった、とも言えるスコットランドにおける宗教改革。今でもセント・アンドルースにある大学の前に彼の足跡が残されているとのこと。1528年に起こったこの一つの残酷な出来事を通して多くの青年たちが宗教改革に身を投じていくこととなり、かのジョン・ノックスも回心へと導かれます。度重なる血で血を洗うような数々の戦いの中、スコットランドの教会は何のために戦ってきたか。「それはキリストから教会に与えられた権能を国家から守ること、いわばキリスト者の自由を守る教会の霊的自立のためであった。」と袴田先生は語ります。

宗教改革時代からスコットランド信仰告白、そしてウエストミンスター信仰告白とその信仰基準によって守られてきたスコットランド教会の霊的自立性と自由でしたが18世紀以降から現代に至るまでの歩みにおいてその自由が拡大解釈され、伝統を継承するのか、それとも捨て去るのかという選択を迫られます。スコットランドの諸教会がウエストミンスター信仰告白とどのように向き合ってきたのかを通して学ぶことは、健全な信条教会として歩むために必要なこととは何かを知る上で意義深いことであると改めて気付かされました。特に国家が国民の内心を支配しようとする日本という国にあって、自発的に決め、動くこと。私たち教会員が歴史と伝統から何を学び、何を守り、何を变えるべきか。それらのことを自らの意識を持って考え続けることの大切さを学ぶ機会となりました。

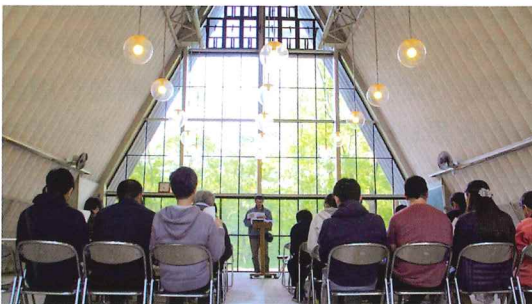
2学年 山口耕平

神学校リトリート



今年も関西学院大学千刈キャンプ場にて恒例の神学校リトリートが行われました。今回は勝田台教会の坂井孝宏先生をお迎えして「説教と牧会～説教使信の具体性を求めて～」と題して、5月23・24日の二日間に渡り講演をしていただきました。坂井先生は勝田台教会での牧師としての働きのかたわら、奥様と二人で「がっつり!! コミュニケーション（通称ガチコミ）」というネット番組のパーソナリティーも務めておられます。また昨年3月には東京基督教大学（TCU）大学院の修士課程を修められました。

一日目の講演では、その際の論文のテーマでもある田中剛二先生の説教を題材に、御言葉の権威をもって語りつつ、一方で畏れと謙虚さを持って聴衆の前に立たなければならない説教者としての姿勢を学びました。



二日目は、ご自身の実際の牧会生活を具体的に紹介していただき、実際に礼拝の中で語られた説教を私達の前でしていただきました。御言葉の説教が、会員の一週間の歩みのための霊の糧となるために、どのように整えられ、用いられなければならないかを常に考え、取り組んでおられる姿を示していただきました。

二日間の講演を通して、「神・説教者・聴衆」との関係において、先生ご自身が今も説教者として悩みながら講壇に立っておられる姿を通して、同じ説教者を志す私達も多くの勇気を与えられ、また自分たちに与えられた召しについて深く思われる、実り多い二日間の講演でした。

またこの講演以外にも、この春に神学校に加えられた新入生の皆さんや、南アフリカから新しい宣教師として来日されたデュラントご夫妻が献身の証しをしていただきました。二日間という短い時間ですが、互いに理解を深め合いながら楽しい交わりのひと時が与えられました。改めて、私達のような者を召し出してください、そして今年もまた新しい仲間を与えてくださった神様の恵みに深く感謝する二日間となりました。

2学年 堂所大嗣

神学研究報告

ステファン・ファン・デア・ヴァット

1. 研修報告：H. Henry Meeter Center for Calvin Studies (カルヴィン大学、グランドラピッズ)

5月中旬から6月末まで、グランドラピッズにあるカルヴィン大学にて、神学研究の期間が与えられました。そのために、奨学金 (Meeter Family Fellowship) を H. Henry Meeter Center for Calvin Studies からいただきました。さらに、幾人かの支援者、そしてまたミッション・ジャパンからの援助のおかげで、この機会を家族として用いることが許されました。滞在期間中のほとんどを、他の大学生と共にカルヴィン大学の一般寮で過ごしました。ホームスクーリングの柔軟性のおかげで、あちらでの素晴らしい環境の中で子供の教育を続けることができました。良く整った図書館・博物館・美術館・公園を回りながらとても有意義な学びのひとときを経験し、充実していました。本当に心より感謝です。



2. 研究焦点と発表

ミーターセンターでの研修期間は、私が神戸改革派神学校で教える内容を豊かにするための一種独特なチャンスでした。研究課題として取り組んだことは、牧会的ケアへの忠実さと伝道に対する熱意を、現代の牧師はマルティン・ブ



ツァーとジャン・カルヴァンから学べるのではないかということです。歴史的観点から牧会学と牧会ケアを探ってきました。ブツァーとカルヴァンの牧会的な配慮、そしてまた彼らの宣教的な情熱を再発見できたことを有意義に思います。この研究の結果が改革派の牧会者の神学的な教育に役に立つことを願っております。



ミーターセンターで使用できる (宗教改革に関する) 豊かな研究資料は大変貴重な宝物で、効果的に集められていて、とても使いやすいです。そしてセンターの専門家の仕える姿勢によって支えられて、本当に得難い機会だったと思います。6月末に当センターにて研究発表をし、その内容をこれから展開していきます。神学校の教材にもそれを取り込み、機会があれば公表する予定です。

3. 他の有意義な機会と出会い

グランドラピッズにいる間ずっと、この時はただ学問的な研究機会に勝る期間だと思ってくれました。あの時あの場所で主の導きの中に置かれていたこと、積極的な方々に出会わせられて、しばしば気づきが与えられました。

✓ パウロ・ユ先生と共に最初の一週間、CRC ミッションの宣教師住宅に滞在し、グランドラピッズを探索したこと。

✓ CRC Woodlawn 教会にて豊かな礼拝を守りながら、新しい友人に出会ったこと。



✓ カルヴィン神学校にてその教授会のメンバーと話し合う機会が与えられたこと。

✓ 牧会学、ディアコニアに関する研究について、プリンストン神学校とピッツバーグ神学校の教授たちとやりとりできたこと。

✓ CRC 定期大会にいらした持田浩次先生と共に、グスタフ・クラーク先生（南アフリカ・オランダ改革派総会常任書記長）と話し合えたこと。

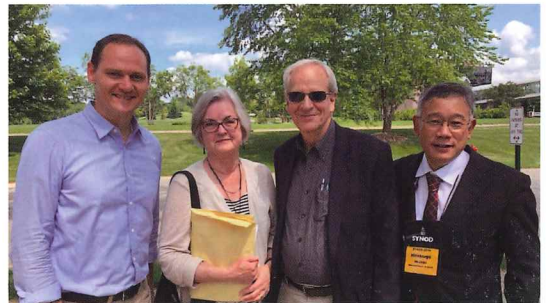
✓ CRC 引退宣教師のリチャード・サイツマ先生ご一家、レイ・ホメス先生、そしてマイク・アブマ先生ご一家（CRC Woodlawn 牧師）と交わったこと。

✓ カリン・マーズ先生（ミーターセンターのディレクター）とのポッドキャストインタビュー。

✓ 神学研究についてオランダ・中国・韓国・ブラジルとオックスフォードから来た研究者と話し合えたこと。

✓ ジョエル・カーペンター教授（Nagel Institute for the Study of World Christianity のディレクター）と出会い、話し合えたこと。

以上の経験によって、また新たな献身の思いを持ちながら神戸に戻ることができました。改めて、主の恵みによって日本キリスト改革派教会の指導者を訓練することに焦点を当てながら、敬愛する兄弟姉妹と共に地域伝道やもっと広い範囲での教会形成に励みつつ、ベストを尽くしたいと思います。感謝を込めて、ステファン・ファン・デア・ヴァット



New Books

1 『改革派教義学7 終末論』

著者：牧田吉和
販売価格：4,200 円

すべての神学的課題は終末論に流れ込みます。牧田先生の情熱を込めた終末論の講義が、ここに再現されています！



2019年神学校行事（抜粋）



1月8日（火）

第3学期開講講演
講師：弓矢健児講師

2月8日（金）

全校祈祷日
講師：望月明先生



4月5日（金）

第70回入学式

4月5日（金）

第1学期開講講演会
講師：吉田隆校長



5月11日/18日（土）

信徒神学講座「近現代史」
講師：袴田康裕教授



6月25日（火）

第67回卒業式

その他

新生歓迎会
高麗神学大学院との交流会



三位一体論の形成

神戸改革派神学校では、年2回「信徒神学講座」を開講しています。これは、聖書や神学を学びたいと願っている多くの信徒の方々にその機会を提供するものです。是非、奮ってご参加ください。多くの方々の参加を心からお待ちしています。

受講料1日：800円

・講師：**坂井純人**
(神戸改革派神学校講師)

・時間：13時30分～16時

・場所：神港教会
(日本キリスト改革派)

1. 9/21(土)

「聖書が語る三位一体の神と
教会の信仰」

2. 9/28(土)

「正統的三位一体論の
形成過程とその意義」

● 講師のことば

三位一体論は、キリスト教信仰の心臓部と言われます。それは、この信仰告白・教理が、私達の信仰生活の中心である、どなたのみを礼拝し、どなたのみを救い主として、信じるべきかを明らかにするからです。御父、御子、聖霊なる神に正しく礼拝が捧げられる時に、私達の信仰は健やかにされます。

今回は、聖書が語る三位一体の神様とその御業の素晴らしさ、教会の歴史を通して、告白され、整えられて来た、正統的三位一体論の形成過程を学びたいと願っています。聖書に聴き、聖霊に導かれた教会の歩みを通して、キリスト教的な神観と信仰の道筋を改めて、覚える機会としたいと願っています。

● テキスト

講師がレジュメ・資料を配布します。

NOTICE

2020年「春講座」

＜ギリシャ語の始めの一步＞

- 日程：5月9日、16日(いずれも土曜日)
- 講師：金 昭貞 (神戸改革派神学校講師)



神戸改革派神学校

2020年度新入生募集

4年制コースと2年制コースの二つがあります。高い専門性と実践性を備えた神学教育をめざします。

4年制コース

教職養成課程です。ゆとりある充実した授業とともに実践面を強化します。男女とも。

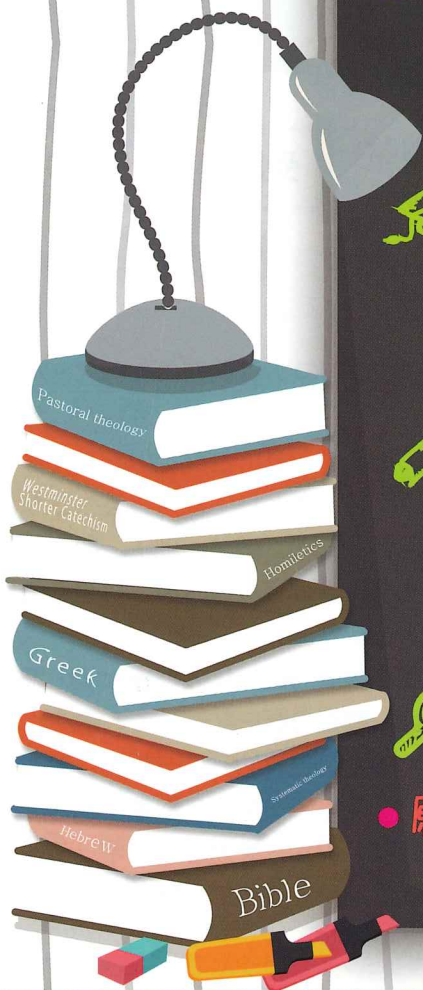
2年制コース

教会に献身する信徒のためのコース！信徒説教者・伝道者など教会献身者の神学教育のために。

*4年制への編入も可能

特別研究科・聴講制度あり

- 願書締め切り：2020年1月10日(金)
- 入学試験：2020年2月18日(火)



www.krts.net

「神戸改革派神学校」で検索

〒651-1306

神戸市北区菖蒲が丘3-1-3

神戸改革派神学校

TEL : 078-952-2266

FAX : 078-952-2165

E-MAIL : rcj-kobe2266@nifty.com

